



「何をつくらうかな」

10月1日～6日に行われた弟子屈町木育週間での1コマ。たくさんのおもちゃに囲まれ、木のぬくもりを感じながら仲良く遊んでいました。

(関連記事23ページ)

Public relations magazine

2018.11

No.771

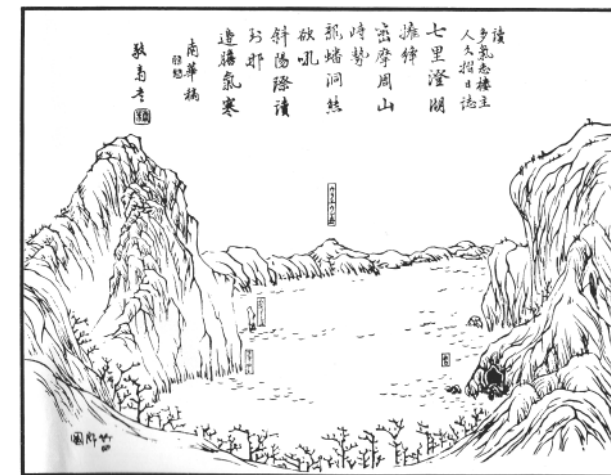
てしかが

主な内容

- 冬を迎える前に.....②
- 協力隊通信.....③
- えこまち通信.....④
- 第89号町議会だより第3回定例会.....⑥
- 健康づくり推進委員が決まりました.....⑮
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設.....⑳

むかしむか史 (337)

てしかが歴史写真館 211



摩周湖の風景画に添えられた七言絶句(久摺日誌より)

幅広い人脈をフル活用

—松浦武四郎メモリアルイヤー—

3月から先月まで、松浦武四郎さんが現在の弟子屈町域で過ごした様子を、彼が出版した久摺日誌などの記述を基に紹介してきました。

行動中、武四郎さんにとって欠かすことのできなかった三種の神器が「野帳」(メモしたノート)、「筆付き矢立」(墨を染み込ませた綿も含めた携帯用の筆入れ)、「懐中羅針盤」です。見聞きしたことはもちろん、地元で暮らすアイヌの人たちからの聞き取りを加え、地名やその場所の状況、住民の名前や家族構成などを細かく記録し、スケッチも数多く残しています。

調査終了後、武四郎さんは地図や書物として出版し、蝦夷地に関する実情を広く世間に知らせました。読者を一人でも多く増やそうと、凝らした工夫のひとつが「有名人とのコラボ(合作)」です。人気画家に挿絵を頼んだり、詩人に作品を寄せてもらったり。

久摺日誌に掲載されている摩周湖の風景画は武四郎さん自身が描いていますが、南画家で当時名を馳せていた春本南華による七言絶句が添えられています。

七里澄湖擁絳巒 摩周山峙勢龍蟠
洞熊欲吼斜陽際 讀到那邊膽氣寒

(七里周囲の澄んだ湖は赤い山々に囲まれて、摩周山はそばだち、龍のわだかまっている勢いである。洞穴の熊は夕陽のとき、ほえようとしている。久摺日誌のそのあたりを読むと、肝が冷えるようである)

この作品を刻んだ石碑が昭和16年に摩周第1展望台近くに建てられました。十数年前に倒れて以来、現在まで復活していないのが残念です。

てしかが郷土研究会(斎藤)

てしかが 2018.11

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ㊟482-2696
〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>